京都集

和書門
類 三六六九四 號
函 二一二
架 一一
冊 三八

内閣文庫
和書
類 三六六九四 號
冊 三八
函 五八
架 四

内閣文庫
番號 和 36694
冊數 38 (3)
函號 158 1

国立公文書館
National Archives of Japan

昌平坂學問所
高橋氏藏書印

○大猷公

○有德公

昌平坂學問所
淺草文庫

国立公文書館
National Archives of Japan

一橋家文庫

夜鶴集巻之二

大猷公

近藤又兵衛武郡輯録

記上之巻ノ

台徳院様御代御旅御陣之内大石出羽守

こゝ而ゝ見物被仰付ケらるゝ　上意ゟ被仰付ケ

候ハ御陣記書之鬼の法水と云狂言ハ別ハ御ゟ大地震

ゆゑ当ハ御ゟ別ハ御ゟ　上意ゟ被仰付ケ

ゟ　上意ゟ被仰付ケ　上意ゟ被仰付ケ

ゟ　上意ゟ被仰付ケ　上意ゟ被仰付ケ

ゟ　上意ゟ被仰付ケ　上意ゟ被仰付ケ

台徳院様ゟ　上意ゟ被仰付ケ

ゟ　上意ゟ被仰付ケ　上意ゟ被仰付ケ

大御院様御厨十二張所の　厨子　御厨　白檀院様
[illegible]御所[illegible]
地蔵寺[illegible]　[illegible]山伯耆守　作代[illegible]
張所[illegible]例[illegible]
作の御様[illegible]
[illegible]
上様[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○将軍家御上洛記　全部一巻松浦氏所蔵と同じ　寛永十三年甲申六月十日江戸御発駕　御上洛十八日より

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○内侍所より巻より　大猷院様御病中御問ひ来る
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]　御直ゝに　御病気[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
一人[illegible]
[illegible]
[illegible]

如身分無無之儀ニ付ハ貸ハ仕ル事ト　御意ニ付
和行ニ依て下借の事ニ金子ハ書付入　御殿ニ
ハ出て無ハ和ト　御意ニ付
ハ出ル者中ニ
ハ貸ハ仕ル事ハ金子有之ハ
ケ様ニ相定ル中上ル和ハ
一同百姓ハ
御家の男ハ
兼ル
言和ハ
中ニ
上意ニ付
ハ出ル者中ニ
ハ貸ハ仕ル事ハ
ハ出ル者中ニ
ハ貸ハ仕ル事ハ
ハ出ル者中ニ
ハ貸ハ仕ル事ハ

中は藤市の妻不儀あるゆえ御役仕りを差止て暇申事
行を聞り行る者よりの示談にて出奔仕事にて
なるとして不人物を中は連れ去りよりこれ
もの聞く遠方なる故は地頭に成り
ゆえは右為出張の見届事
事あり　大獄院様御内史度の為出張とする
事なり
○宮地すい市兵衛拾遺　松崎祐之が著述より　寛永の比出雲国の
居御の者を伯耆国へ出張をなしたる者あり
年とけ行る男御り給ふ
同書てかき入れとなる　御殿にて行事なやと
出張の者は今日は出雲藩にて上下参りゆく
酒肴にあり男の御碑郡を出雲藩の新方
あるとして新しいとも同じ事にてなや　御屋
なひの者へ書入れて仕り事なりゆえ中なれを
夫とも知ること事なり　特も酒肴にあり者
ならんとして御警の為に羽織一所の
者藩より場へ出て今日の日の　御書を
を藩命をやめ知る
○同書よ　獄廟の御付　但馬守殿出雲藩に居まご小長

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○同書[illegible] 寛永九年[illegible]政書 [illegible]

寛永十年[illegible]

[illegible]

○同書東叡[illegible]

法[illegible]道春[illegible]

○同書[illegible]の町人[illegible]

十一年[illegible]

○同書大坂[illegible]

又江戸町人[illegible]

○寛永小説 此書ハ既ニ此一冊寛永年中近臣等之所語也與我祖道春所聞雖有詳畧異同不可為虚説故新写之以備 台覧戊戌十一月 日

大学頭林信篤トアリ

御城に付少年に成られ候神社を
仕替らまいを例の儀ようとうを
行の為よ御一番や見に成て例の儀に作替らま
出御者こあとにあて右様ようを事まに成て上りうを成
十七八年ものあたりをのこりて居中に世話十上に成て
ゆうかつきなられ候事御座 還御砂屋も行の
ゆ御法も云こを落七八十日もて又 御城の氏神に
ゆこを事被なられ仕替を等の所よ事を退ゆ中上に
被いの行の後にて三退ゆ事被なられ候例
の流先自由人先番後 上座の達一ゆ多よ三退ゆて

てこを中上に成て仕替い破(バリ)者ゆてひろ〳〵の少年まて
ゆを張よ被なられて天下地ゆ仕事をてこをゆと 上こを
○同新ゆつ事新ゆを行よ被なられゆ氏ゆ野兵ゆを
ゆ事被なられて事新の浜船を内の中ゆて内こを事の
所さびらなられて内内あこを所中ゆを 御こゆて右浜船
ゆ捨こを如ゆ数生の浜船をこを出所浜船を
上座ゆなられ者よ右のこを被なられ候ゆ事所
ゆていこを仕替ゆて被なられ事を居なられ
を浜行の内こを事 こをゆ被なられ事一所ゆ浜
浜ゆ事前ゆて武器ゆこを

○同書　源頼朝卿の家人[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

○同書　大獄公い[illegible]を始りて[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

今此出書といふは[illegible]

[illegible]

○同書に大獻公西鶴野に出張し時長刀を[illegible]

[illegible]に[illegible]ありて[illegible]小野の[illegible]

切りたらんかと思ひ[illegible]

[illegible]て[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○下谷集　堀真詮著述

獻廟の御時奉行花蔵判を

御簾の内にて出でよ[illegible]

[illegible]の老中[illegible]松平伊豆守殿町奉行の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○弓削物語 外書ハ

饑歳ニハ糟糠ヲ貴ミ豊年ニハ稲粱ヲ賤ムトカヤ保平ノ比
ヨリ王威日ニ陵夷シテ古ニ異也就中元弘ニ富士山崩し
テヨリ皇統二ツト成又加フルニ應文ノ大乱ヲ経テ文武其
柄ヲ失フト雖皇統幸ニ存シ織田公ヲヘテ豊臣公ニ至リ
テ皇統ヲ尊ミ玉フト雖尚末足シニ　大神君世ニ出玉ヒ
誠ニ上ハ宸極ヲ安ジ下ハ草木ヲ撫玉フ御神徳申モ
中々恐アル丁也十ホ御三世ニ至テ俊傑ノ徳ヲ顕シ礼樂ノ
典ヲ盛ニシ玉フハ　大猷院殿家光公也御連枝ハ已ニ后位
ニ昇玉ヘル御盛華恐悦ノ御事ノミ也然ルニ一項如何
ノ叡慮ニヤ頻ニ鍛治ヲ召レ昵近ノ人々モ弓馬刀劔ヲ

習ヒ或ハ武家姿ノ御人々モアリ此御物好世中ノ流説
置ケレバ関東ヨリ不審リ玉ヒテ昵近ノ女中ヲ召下サレ
御城中ニテ御局申サレケルハ京都イカヾノ思食ニヤ
世上ノ取沙汰サマ〳〵也委ク御聞所遊タク召レ候也世上
ノ噂ノミナラシカシヨモヤ御間柄ト申左様ノ御事ハアラセ
ウルマジキ也世ノ疑ヲ晴サン為ナレバト申サレケレバ答曰
イヤトヨ京都ノ御氣色アシク候サレ共御マヘゴトヲ京都
御前遠キ人ニハ申ハ恐多シ御直トナラバ申上ベクトアレバ
御内々ノ所ニテ御對面アリテ御尋ニ答申上ラルヽヤウハ
百數ヤ古キ軒端ノ御事共ヲ今日ノ御不自由御賂ノ
不行届ニ朝夕ノ御物モ思食ニ不叶且ハ延喜天暦ノ御政ニ
遊シ度一日モ叡慮ノナゴミナシ近々ニ武官ノ人ヲ遣サレ御政
事御取返シニ相成筈也ト申上ラルレバホロ〳〵ト御落涙所
遊扨コリ京都ノ御様子夢以恐入タル次第也御賂等ノ
不行届ハ皆某ガ罪也然共皆室町家ノ末ヨリ天下大ニ乱レ
君臣共ニ安堵セズ神社佛閣モ多クハ廃シ萬民塗炭ニ
陥ル事数年ニ及ベリ爰ニ織田羽柴両家誠忠ヲ尽サレヤヽ
上下ノ差別ヲ立名以安カラシムト雖乱離イマダ絶ズ國々ハ
皆各ノ私物ト心得兎角上ヲ恐レズ逆威ヲ振ヒ萬民ヲ苦
ムル輩アリカヽリシ処我祖父ニ候　家康永禄九年十二月

従五位下三河守ニ叙任シテヨリ後段々朝恩ヲウケ遂ニ任
槐ノ極望ニ達シ剰勅ヲウケテ理世安民ノ將職ヲ奉ス
誠ニ萬々年ヲ経ヒ報ジ奉ルベキ日ナシ 家康浅官ノ
始ヨリ心ニ密ニ願フ所ハ上ハ宸襟ヲ安ジ下ハ萬民ヲ救
ントノ所存ナリケルニ不思議ニ今日某ガ身ニ及ビテ
職ヲ継ヿ偏ニ神明佛陀ノ助ル所也抑祖父并父ニ
候秀忠ヒニ古来ノ悪政ヲ除キ三教ノ信誠ヲコラシ
身謙リ徳行ルヽニヨリテ今天下安穏ニシテ牛馬
耕耨ニアリ是併京都ノ御徳トハ雖家康ヨリ治
メリト思召ベキ也然ニ今某ガ身ニアメリテ叡慮ノ

御異変ニヨリ官軍ヲ向ケラレバ何ソ朝敵トナランヤ
普天ノ下率土ノ濱皆臣民タレバ某モ朝使ニ對シ首
サレノベテ討ルヽマデノヿ也サレヒ人皆其主ヲ主トシテ
朝廷ノ尊キヿヲシラザレバ如何様ノ逆人有セジヒ云
レズ其上當家御誅罰討ノ後如何様ナル逆臣出来リテ
朝廷ヲ軽ジ国位ヲ危ブメンモ計ガタシ今日我家ノ
亡ンヿハ露塵モ惜子ヒ忝モ天照皇大神八幡大菩薩
ノ御正統尚行末億々萬年モ御長久ニテ祖父誠忠ヲ
尽サレシ勲功子々孫々朝廷ヲ安ジ悪徒ヲ退ケ治国
安民ノ所存モ消テ家ヲ亡サンヿ深キ御子細モ

有ベケレ圧餘ニ御情ナキ慮ナラズヤ尚某ハ當家
ノ亡テ後朝廷ヲ守護スル人イカヾアラント世ノ成行
末ヲ恐レ申計也叔父武士ノ輩下民マデ再兵乱ノ
苦ヲウケンコトノ不便サヨト又々御涙止メサセ玉ハズ
女中モ打シホレ落涙シ今程ナル御信實ナル思召
ヤ十京都ヲ御大切ニ思召シ下々迄御不便ガルコトノ
深サヨ左様ニ思召ナラバナゼニ御満足ガルヤウニ
御計ラヒナキヤト申上ケレバ仰ニ慮萬一ニモ祖父
ノ功ヲ思召アテラレヨ古歌ニナガラヘバ云々トイヘル
下萬民ヲ憐セ玉ヒ彼漢ノ董卓トイヘル逆臣亡テ

曹操孫權等出シコトヲ思召テ此度ノ逆鱗ヲ止サセ玉ハヾ
朝廷ノ御長久當家尤萬民ノ安堵千秋萬歳天恩
ヲ仰ン且ハ士民ノ倒懸ヲ免レンコトノ娯シサヨト
仰ケレハ私ハ久ク御側ニ在者ナレバ他人ノ申上ト千
ガヒ御諫聞シメサンヤ去今マデノ通ニテハ聞シ召シ
私ガ兼リ候京都ノ御入用ハ此印形ヲ以申上シコト
御兼知遊ヌヤ仰ニ左様ノ筋ニテ京都ノコト治ルナラバ
思モ角モスベキ也元来国中朝廷ノ御物也雖然保平
ニ乱レテ世中騒シク成行ハ鎌倉殿ヲ摠追捕使ニ補セ
ラレ国中ノ成敗ヲ執サセ玉ヒ地頭職ヲ下サレ国々ニ

地頭ヲ置テヨリ示来政事地面ニ永ク武家ニ属セリ
コレト申モ公家方ノ諸臣唯々日夜優美ノ一ノミ
ニ心ヲ尽シ弓馬ノ武官モ音樂ノ藝者ニ任セラレシ
ニヨリ時々悪黨アリテモ誰カ分捕スル人モナク国司モ
後ニハ代官目代ナドニテアラヌ者ナレバ中々国ノ治ル日
ナシ況ヤ清盛ガ悪逆北條ノ有様後醍醐帝ニ至テ大乱
トナリ室町殿ノ守護アリシ皇統誠ニ宗廟ノ御加護
ニテ御存知ノ御事也且室町ノ末ノ有様ニ祖父ガ
尊敬ハ勝ルベシ況ヤ今系弱美ノ侍臣ナド萬一ノ
御用ニ立ベキヤ當家ハ大小名ヲ隨ヘ武備ヲ礼シ和漢
ノ善蹤ヲ撰ミマサカ朝廷ニ逆スル人カ或異国ヨリ襲ハン
ズル時ニ本朝ノ光ヲ揚ゲ宗廟ヲ安ジ公家ヲシテ危キ
ヿヲ知シメザル是誠忠ニ非ヤトカク今ノ善事ヲ以テ
昔ノ悪事ニ引當テ思召サバ左ノミ當家ノ致方宸襟ノ
不安ヿモ有マジ夫天子ハ萬民ノ父母タリ萬民ノ其所ヲ
安ズル様ニト思召サバ御憤リモ止ヌベシト御詞ヲ尽シ
ノ玉ヘバ扨モ御尤ノ御事也トク〳〵上京御諫申上シ
就実先刻ノ御書物ヲ下サレヨト帝御名印アル御書
分ヲ玉ハリ且先刻ヨリ仰ノアル中心覚ニ書分シヲ
京都ニ持参アリテ申上ラルハ關東ノ御器量抜群

ノ上一分ノ私ナク唯天下萬民ノ心入眼中ノ光リ
心氣ノ強ク落ヤウノ親マサリノ人也中々並々ノ
人ノ相手ニ非ズ又此ニ候留ヲ御覧被遊ヨト差上ラル
得ト御覧アリテ朕ガ思召スヨリハ殊ニ德河ハヨキ心入也
カヽル上ハ東西弥ムツマシクゾ何モヨク〳〵計ヒ
奉レト其由関東ヘ聞ヘケレバ何事ナク皆内々ニテ
治リ御互ニ御感心ノ御ユヘカクテ門院御所ノ仰ニ
関東ノ忠信ハサラ也サレ𪜈一旦御物好ニテ不審ノ所ニ
事ハ治レ𪜈此上真實安堵アル様ニト仙院仰連枝
コソヨク心底ヲ知ラルベシ御答ニ家光ハ殊更祖父ノ
德ヲ慕フテ若キ時ヨリ人ニ超タリ祖父既ニ神位ヲ
得ラレシテナレバ何トゾ密カニ御庭ニ權現ヲ御祀
アラバ其勲功ヲ賞シ玉フ叡慮ヲ深ク感ジ申サレント
ゲニモト思食勅作アリテ尊像ヲ密々御祀アリ
ケリ此後ニ関東ヨリ之(ユク)男女ノ人々ニ門院カク御祀ノ
叡慮厚キテ御噂被為有シカバ御両城誠ニ寛仁
大度永久ノ御吉兆御和熟ナルユヘ恐悦ナレ東西已ニ
陰雲ナク公武御和熟ノ後月明カニ風清クシテ
御上洛被遊目出度御時四海平々トメ八紘坦々タリ
先年門院様聖慮ニテ勅作ノ大神君尊像内々御庭

ニ被為祀之朝夕御信仰アリシヲ豫メ聞召及ハレシニ
今年（寛永十一年）御上洛ニテ二サシク御拝見アリテ仰
ラレケルハ幸デカ祖父ノ肖像ヲ勅作シ玉ヘル
恐入也家光ハ勿論孫々マテノ朝恩何ヲカ加ヘンサレ
ヒ尤龍ノ恐アルニ依テ破却セラルベウ請ント欲スル
モ既ニ御成造ノ上ハ如何セン此上ハ只御拝儀ヲ止メ
ラレテ寺社ニ附シ下シ玉ハヾ其ニ於テ心安シ一日
モ早ク寺社ニ附シ玉ヒ永ク秘閉シテ拝見ナキ
様ニト再三仰入ラレケレバ勅許アリシニ院様往年
御在位ノ時神君様ノ御頼被遊ケルハ若江家霊光殿
御再興ノ一也此度思召被出カクト御沙汰アリケレバ
大猷院殿其社記等御覧被遊云々其後被仰渡候ハ
御社ノ儀追テ従関東ノ御沙汰先若江ノ一於京都
旧号御取立ニ相成トノ御事也
御主信之比若江旧号御再興之事
家康公之孰中又今度大猷院殿中之
大家之次男忠之人御之東宮事
但先文信之進ノ為ノ吉田信也

八月

十二年十月大夫殿（理長）ヘ被仰渡御書付

新作東照権現神像を近所屋敷に仮宮
出来次第遷座霊光殿天満宮相殿に附
永世守護仕候為御礼之事

同廿日従関東為御遷座料金三百両御拝領十月廿二日
為門院御所御沙汰家作料金百両被下之同廿三日従
三御所御寄附有之銀廿五枚 御相殿御勸札 宸筆関東之御沙汰
御拝領也同廿四日夜御遷座同廿五日公武之御参詣
有之云々

○武野燭談 共書い

細川肥後守卒して子六九幼雅ゆえ家臣多くの付
肥後の大国之如くいかり きき中老臣の内ゆえ中人の
ものなり 大猷院様の上意なる大名の部屋と名を夜
も家内のよきを為だくあれい為の治ぞう 槌
屋の場ふもいかく成細川忠代の名家と家臣もまと
ぶを及ばれしものの家ゆえ 藤の中とかくも城の
御あり初を城ひて西を殺ぶい
竹の代より三ヶ所を陽をきうとのひ肥後の当主の
わく成ありりとなる

○掃塵叢草 共書い朝風意林巻ノ四十二に記者未詳と云り
則そもそも林の外ちり物語に後元者云者

大猷公御代神尾伯耆守江戸町奉行仕居申御家に召れ

上意ヨリ町奉行ヘ大切ノ儀ニ付申渡ノ事有
御家中ヨリ文ヲ以御指図願仕ル者ヘ相応ノ手当申上ル
又　御ヨリ御指図ヲ願ヒ出ル人々ニ異類ノ人々
多キ事ニ候ヘトモ雷代ノ儀ノ義ハ別ノ義ニ
付テハ仕置ヲ以テ御自身ヨリモ御指図ヲ加ヘラレ
度ト申渡ノ事ノヨシ

○葛藤別紙（写本五巻　記者未詳）　台徳院様御他界増上寺ヘ御入棺御法事
万部ニ付御分ケ申渡ノ事　御家ヨリ文ヲ出ス万部ヲ勤ル
次第ノ表大概ニ表紙ヲ付テ御ノ喝ノ事ヲ
元和ノ頃ヨリ完ノ中ヨリ　御分ケ被レタル老中御書中

ヲ以テ又四郎左衛門ヘ御義ノ事紅深ク人ノ身ヨリ第ノヨシ
記義ヨリ仕ル旨ヲ申ス　上意ヲ以テ被レタリ申ス異退ノ儀
紙ヲ以　御分ケ万部ノ大概ノ概略（中略）ヨリ広度ト云ヘ
ドモ学切ノ分ル所ハ駿河殿ヨリ高ヨリ元和ノ頃ノ事
ヨリ分ケ申ス　御家ヘ出ス紙ヲ出ス事仕ル長中上ラレタル所ト
中ニ紙ヲ出ス事ヤ有ル　教無ノ分ル天下ノ老中ヨリ
紙ヲ以テ自分ノ中事ヲ申ス　上意ヲ以テ
中分ル事ノ分ル御紙ヲ喝ノ事ヲ以テ御布ヲ以テ
場ラレタル上記義ニ出ヤ仕ル紙ヲ手ヲ以テ
ヲ分ケ申ス寺ヲ仕ル出ヤ

[illegible]

○ 寛政年間頃　紀正慶朝臣　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○ 備前老人物語　大猷院様の御歌

[illegible]

うり物世の方物七月のまへにきめられる
前へ引也

有徳公

○兼山麗澤秘策　この書は室新田江戸より加列の書安へ送り候ゟ西徳のよしゟ享保十八年まで
書籍を集め十六巻と切り候ゟ書を
をしてみやうしといつへの書もあり候
上文略
二月十一日猶候列座後　御三家　御三卿　御三家
治年ゟ元禄世変事ゟ
以　伝渡ゟ
御代替ゟ
伝渡事一所ゟ
御三卿ゟ
御三家ゟ
御三卿ゟ

先例の十日より如此変改日ハ仕置ハ[illegible]
仕形ハ十上三代より御法事ハ[illegible]
但持藏[illegible]
も御書[illegible]
より云　但牙[illegible]
御相[illegible]
上様と遠中ハ[illegible]
御[illegible]
[illegible]
○同書摧[illegible]
[illegible]

○同書[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

○同書御[illegible]（有章院様御代）[illegible]

[illegible]

[illegible]

○同書上様[illegible]御老中方[illegible]

[illegible]

御[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○同書[illegible]百　将軍宣下相済中に[illegible]相済
[illegible]

[illegible]

○同書御[illegible]

相見[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○同書紀ニ云ク常陸国町長ノ樵夫ト云ヘル者或旅人ヲ
江海ノ辺ニ招キ老ヲ上仕ル不相応ノ事ヲ行ヒ
ヨリ不依山川ヲ乳母抱ヲ子ヲ捨ル事ヲ
ヲ見ルニ心ヲ新ニ驚ク彼ノ者ヲ
ヲ同事ニ仕ル者ヲ何事ノ事ヲ
出勤シテ上ル者ヲ
仕ル者ヲ門前ニ
ノ小児
ノ者ヲ
ノ者ヲ
ノ者ヲ

毎年御意をうけて松雅を稼ぎ候ものも　文照院様御代より
御勘定ゟ
御意をうけ申し

○同書曰高名の御好者　御書様出逝去後
御家侍　如中様御使者　長福様御出生ゟ如此
出後乃至如中様御出生ゟ如此
御使者　如中様御使者
御使者ゟ如此
御使者ゟ如此
御使者ゟ如此

多くの年月を経て
古代中国の聖人堯舜の聖德を慕ひて中傳に
○同書に曰く堯舜政治の中に於て
最懼るべき政治は人心中に
も恐るべきは人心中に
なり〳〵と御申候
て天下に出度候て
事作るにも
東照宮より當御代迄八代
有章院様より南りに
○同書院自世上に
行なわれ小き物行て能き物行て悪き物
公方様様年始
人の間より今日
始まる
公方様の能き事称
大事なる事
○
常憲院様以来御

[illegible]御指の[illegible]御[illegible]金銀を[illegible]中は[illegible]度[illegible]
[illegible]御[illegible]指出[illegible]中は御[illegible]も[illegible]仕[illegible]金銀[illegible]
[illegible]中[illegible]
[illegible]御費[illegible]中は[illegible]
[illegible]中[illegible]
○同書紀府[illegible]
[illegible]
[illegible]

御[illegible]達[illegible]費用[illegible]
[illegible]

御[illegible]中[illegible]
[illegible]
[illegible]

いるゝ九ツよ後日分中一分いるゝ　御婚礼上り申し

○同書沢山も御用聞のゝ呉服屋西中屋ゝ作り申し端物子
御婚礼ゝて当日　長谷川様大年編布ゝて出来ゝ御用聞ゝ
申ゝ上ゝ太布ゝて出来ゝ出来ゝ御膳ゝ上ゝ御膳ゝ
長福様も御衣のゝ上ゝ　長谷川様御膳ゝ上ゝ
或人ゝ年ゝ蔬菜ゝ御様子呉服ゝ上ゝ大食ゝ上ゝ
出酒も金銭ゝ上ゝ　長上ゝ出ゝ但家ゝ家ゝ上ゝ
酒ゝ出ゝ上ゝ紅紙品御家ゝ相使ゝ時ゝ分量ゝ上ゝ
御大酒ゝ出ゝ上ゝ

○同書三月廿ゝ日ゝ火災ゝ時分　御御屋ゝ出ゝ移御ゝ

御ゝ上ゝ出ゝ　長谷川世ゝ中ゝ出ゝ
文ゝ虚説ゝ上ゝ出ゝ元ゝ火ゝ年ゝ相成ゝ御ゝ
出ゝ御ゝ御ゝ出ゝ第ゝ上ゝ出ゝ
一ゝ日ゝ出ゝ出ゝ出ゝ御ゝ出ゝ屋根ゝ御ゝ上ゝ出ゝ
御ゝ出ゝ元ゝ御ゝ自ゝ分ゝ出ゝ日ゝ御ゝ御ゝ出ゝ
ゝ上ゝ出ゝ御ゝ出ゝ出ゝ御ゝ御ゝ出ゝ
○同書御出ゝ上ゝ出ゝ自ゝ出ゝ上ゝ大ゝ屋ゝ
地ゝ書ゝ書十ゝ記ゝ御ゝ御ゝ上ゝ　上ゝ御ゝ書ゝ
出ゝ出ゝ元ゝ出ゝ出ゝ出ゝ自ゝ出ゝ時ゝ出ゝ毎ゝ度ゝ御ゝ
御ゝ成ゝ元ゝ出ゝ自ゝ屋ゝ御ゝ迄ゝ屋ゝ山ゝ中ゝ屋ゝ

軍者一冊ニ〆諸書を用ゐ第一入ル　上ヲ中ハ通ス而ル也言
ニ〆ハ中ハ自海中而ハ諸侯屋人ニ〆ハ中ハ平素ハ
（ナシ）ニ〆中ハ意味ハ中ハ信用ハ不ニ〆ハ
ニ〆中家事ハ而モ家ニ〆上ハ委細ハ不能ニ〆ハ
御用書院ヲ以ニ〆ハ御老中御列座ニ〆事ハ勤定
所ニ奉行ニ〆ハ諸侯人ニ〆モ家
職者ニ〆知ル特ニ以　思ニ〆ハ
以　思ニ〆事ハ諸侯人ニ〆ハ
ニ〆自分ニ〆ハ御用ニ〆ハ
家中ニ〆ハ

上ニ〆御役屋ニ〆ハ

上ニ〆ハ

ハ

ハ

一仲ヶ間ニ出会ニ年生徒の料理ヲ取て度ニ来会ニて渡ス
なを取出シ仕法ニ而乳紙ニて取扱事
一衣服等仕出シ成ハ見合ニ応り五張ヲ中ニ取事
但衣服家業ニ料理ニ仕義能ニ成ても世ニ出ス
用ニ為ニ持ル出来ル者ハ其ニ応ジ仕義能ニ成ても世ニ出ス
者ハ人馬ニ乗ル者ハ乗ル者ハ乗ル者ハ乗ル者ハ乗ル者ハ乗ル者ハ
一書ヲ持ル者ハ其ニ応ジ仕義能ニ成ても世ニ出ス

一知行之百姓之住宅西方ニて住宅考如掛下家屋
西之ニ成或ハ東之方ニ成ハ一きと事也ハ而之ニ而分ハ
高地ハ別而ハ一際之中分ハ軍も有之ハ之又大きに成
如此遠ハ中事

六月

○元祿後之

先頃も市側流之故ハ 作ハ之ハ中性ハ小組ハ成ハ
分ハ而之成ハ一合見ハ之ハ也ハ之ハ異見也
不及不之ハ上ハ仕ハ為ハ一きと事ハ而之ハ
下ハ元作部之ハ人市側旦ハ成ハ之事ハ機ハ之ハ通

習ハ新ハ成ハ之ハ拵ハ別之ハ拵ハ之ハ度相ハ將ハ下ハ知
ハ而ハ知ハ之ハ中性ハ小組ハ之ハ陸ハ和ハ之ハ
いハ也ハ人拵ハ能ハ之 元禄後之ハ人多之
ハ拵ハ前ハ人拵ハ之ハ拵ハ之ハ家人（ものと事ハ之
只今ハ新ハ者ハ門人拵ハ之ハ拵出之ハ拵ハ之ハ除ハ外ハ者
ハ中ハ之ハ去ハ年ハ人ハ別ハ江戸ハ後合ハ者ハ之
之ハ拵ハ之ハ者ハ文ハ第ハ之ハ拵ハ之ハ段ハ拵ハ之ハ
拵ハ之ハ一ハ男ハ之ハ市ハ中ハ年ハ生ハ之ハ習ハ一ハ之ハ拵ハ之ハ
ハ度ハ拵ハ下ハ 上ハ之ハ拵ハ今ハ之ハ下ハ之ハ拵ハ之ハ
元禄家ハ之ハ市ハ拵ハ之ハ前ハ文ハ拵ハ之ハ拵ハ之ハ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雖在憂服見叔父叔舅既除服召大理三官於便殿親問訟獄之若否召見都御史監察御史其餘諸尹衛將以下諸官長前後召諸前殿而見之可者薦之不可者貶之大理三官及御史後亦見之是以百官有司無敢怠懈者矣同僚相勉勵日就月將○同書　王常用儉素而至有義不可儉則斬然行之元祿中改鑄大板金以其和銀銅比舊制其質甚惡王曰大板金国家之上幣也不可以質惡者行也享保十年乙巳詔改鑄以純金於是乎大板金復慶長之舊十二月朔始行新幣○同書　王有絶絶興廢拯逸民之志加藤清正福島正則平岩親吉等並國初之名家也有故皆国除王乃求三人子孫而興之邑並為朝士其餘如此者尚多矣徵處士之有一技者興之俸祿為士儒則青木文藏天学則猪飼雨川書則細井知慎計史則野田某等是也

○耳囊　此書ハ根岸肥前守藤原守信輯守信ハ文化ノ頃迄江戸町奉行タリ

或年　有德院様御成之遠江の樹の枝よりこぼれ出たる花を見給ひ

[illegible]

[illegible]

上意[illegible]同　御代[illegible]人[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十月十六日奥より佐竹殿へ書

○兼山麗澤秘策　尚地[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

御城之儀ハ時分も御位之人中に様留と唱る伊勢神
主之方　左ハ世上ニ申伝ル　左ハ御自分神主之時分
御屋敷ハ時分諸家之ごとく旗屋敷番所下に略略之敷
作も御云家為り門構同様御作り　中務殿略略と称
御家物出ル　上意之ごとく　上意之ごとく長屋之二階と思ふ
御出之入ハ公儀に御意之ごとく　浅野内大臣殿番所
御前に成ル向後人を撰申上ハ時分異変ハ御法之成
ごとく　上長屋之ごとく　作者上長屋之ごとく
ハ　常ハ向後を禄之ごとく　十上
之ごとく　作者上長屋之ごとく　十上
之ごとく　常ハ向後を禄之ごとく　人の者之
之ごとく　少者之ごとく　上長屋之ごとく　此時分ハ先中も

之方　左ハ御前に成ル　左ハ之ごとく　左ハ御前に成ル
御前に成ル　左ハ之ごとく　左ハ之ごとく　作者ハ有之ごとく
新付の先中も之ごとく　御前に成ル　御前に成ル
作者上長屋之ごとく　文書
○同書　此日大久保作者殿　御前に成ル
時張之ごとく　御用御　左ハ之ごとく　小倉本藩之ごとく
ごとく　ハ　ごとく　ハ　ごとく　本藩ハ中之ごとく
御意の神之出之ごとく　ハ中之ごとく　初英雄之成者之方
作者　作者之ごとく　ハ　世上ごとく
作者之ごとく　作者之ごとく　作者之ごとく　作者之ごとく

[illegible]

○同書 上文異 [illegible]日五人殺一中夫妻人日和[illegible]

[illegible]後[illegible]門日[illegible]と云 仰[illegible]

[illegible]速云 仰[illegible]御[illegible]代[illegible]五人殺一中夫有[illegible]五人父母[illegible]

も制[illegible]云 仰[illegible]

[illegible]仰[illegible]聖人[illegible]殺人

[illegible]仰[illegible]

[illegible]二[illegible]

[illegible]代[illegible]

[illegible]後世[illegible]

[illegible]

○同書 西[illegible]事 御[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○同書 紀伊[illegible]

東照宮 神[illegible]日光の 町中[illegible]神[illegible]

[illegible]神[illegible]

[illegible]仰[illegible]

[illegible]

東照宮　御意と号し[illegible]御書付[illegible]

神輿[illegible]御[illegible]如何中[illegible]男女[illegible]

中[illegible]一[illegible]ちと上[illegible]見物仕

[illegible]御[illegible]何[illegible]

[illegible]

[illegible]

東照宮　神輿御通[illegible]累年[illegible]

[illegible]

[illegible]

○同書上文異　[illegible]御家代上[illegible]義[illegible]御[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

○同書 有栖院様御[illegible]御[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

夜鶴 巻之二終

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan